

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2023年5月29日
作成 高齢者支援センター	鶴川第2
作成者	具志堅 恵美子

1.開催日時	2023年5月18日	(木)	19:00	～	20:30
2.会場	オンライン				
3.主催センター	鶴川2 ・ 鶴川1				
4.参加人数	25人				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 7人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 7人 (うち、医師 人)		<input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 8人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人		<input type="checkbox"/> 老人会 人		<input type="checkbox"/> 住民 人
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会 人		<input type="checkbox"/> 警察 人		<input type="checkbox"/> 行政 人
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (オブザー 傍聴1人 バー1人 (行政))				
6.開催テーマ	2023年度地域ケア推進会議「(仮)BCPや災害時の対応について」の進め方について				
7.地域課題	<p>(1)課題設定の背景</p> <p>鶴川圏域の地区別人口動態から、圏域の人口推移について確認すると、高齢者数、高齢化率共に上昇傾向にある。独居や社会的孤立により、医療や介護保険でのサービスを利用する事により生活が行えている地域住民が多く存在している。</p> <p>(2)検討した地域課題</p> <p>鶴川地区には災害時の医療拠点が少なく、災害発生時の避難宿泊施設も13か所である。その中で、災害発生時に医療や介護サービスを各事業所は速やかに提供できる体制整備が必要とされるが、各事業所とも体制整備に繋がるBCP策定に現状苦慮している。各事業所においてBCP策定と共に、他事業所との連携体制の構築を進める事により、災害発生時でも市民へ早期のサービス再開を図る為の体制整備が求められる。</p>				
8.会議の内容	<p>計画書での地域の防災の取り組みについて③④の情報共有を行う。</p> <p>③医療職と介護職によって、災害時の対応の違いやBCP作成にあたって想定している災害の規模に違いがあることを事を共有。災害時の対応を考える上では、まずそれぞれの専門職がどのような動きをするのか、その違いを理解し、その上でどのような取り組みが出来るのかを検討していく必要がある。圏域合同の地域ケア推進会議にて情報共有する。</p> <p>④災害時用安否確認リストについて 介護事業者としては必要なリストも、医療側では特に必要としていないという事を確認。リストの内容については介護事業所同士でも共有しておいた方が良いと思われるため、検討は部会にて継続する。</p> <p>⑤鶴川圏域での今年度のテーマについての検討 「(仮)大災害発生！オール鶴川で乗り切るために、私たちが出来ることは？」となる。</p>				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>③圏域合同の地域ケア推進会議に向けて、圏域内の災害医療コーディネーターでもある村野医師に災害時の動きや地域の備えの現状などをなどをお話しいただけなにか打診し、開催日は11月をめぐりに村野先生のご都合に合わせて調整をしていく。会議にて現状を共有をした上で、地域と医療と介護の災害発生時の取り組み・連携体制についての意見交換を行う。</p> <p>④推進会議の介護事業所(居宅含む)にて災害時用安否確認リスト策定の部会を発足し、定期的に話し合いの機会を持つ。各事業所が作成しているリスト項目の共通化を図り、安否確認作業の効率化を考え連携することにより、地域での早期のサービス提供の再開を図ることを検討する。</p> <p>⑤仮テーマのため、継続検討する。</p>				
10.その他					